

平成31年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）

NGO との協働による国際協力活動 （福祉分野）と松山市の ESD/SDGs 推進事業 （フィリピン共和国ロドリゲス市）



松山市

1. 事業実施に係る経緯

松山市のNPO法人Community Lifeはデイサービス事業所を運営しており、平日の放課後や休日に学習支援や絵画教室、公園遊びや買い物・調理、バス・電車等での外出などを通じて、障がいのある子どもの地域生活を支えている。また、平成28年1月から平成30年12月にJICA草の根支援事業「障がい児(者)のエンパワーメント獲得のための支援技術者育成プログラム」として、フィリピン・ロドリゲス市で現地のNGOや行政と協力しながら、障がい児(者)を支援する技術者の育成を行ってきた。当該事業は今後、ロドリゲス市役所の保健局と社会福祉開発課へ引き継がれ、障がい福祉に関する制度と新サービスの創設が予定されており、福祉技術の維持・向上のため引き続き支援が必要な状況である。

そこで、松山市と(公財)松山国際交流協会、NPO、教育機関が協働することで、NPOの継続的な福祉技術支援活動を支えるとともに、当該活動を国際理解ESDの題材として活かし、自治体におけるSDGsの導入・推進を図るモデル事業として展開できると考え、本事業の実施に至った。

2. 事業の目的

本事業は、松山市と(公財)松山国際交流協会、NPO法人Community Life、NPO法人えひめグローバルネットワークなどの国際交流活動実践者や教育関係者、福祉関係者で実行委員会を組織し、2ヵ年での実施を計画している。

1年目の令和元年度は、松山市から現地へ専門家を派遣するとともに、ロドリゲス市の福祉行政関係者の研修生を受入れ、福祉技術の支援協力を行い、ロドリゲス市の障がい者福祉の拡充・向上を目指す。

併せて、松山市内の小学校等でこの取組を題材とした国際理解ESDを行い、ESD(持続可能な開発のための教育)のモデルとして活かすと同時に、SDGsを推進していくための連携ネットワーク作りを行う。

2年目は、フィリピン・ロドリゲス市との福祉技術支援活動のフォローアップと小学校等での国際理解ESDを継続しつつ、国際理解ESDとSDGsを推進するための教材づくりを行い、将来にわたる継続的な国際理解ESDとSDGsを推進することを目的としている。

3. 事業内容

(1) 国際協力事業(フィリピン・ロドリゲス市への障がい児(者)支援) ＜現状と課題＞

- ・ロドリゲス市の障がい福祉行政は主に社会福祉開発課(MSWDO)と保健局(MHO)が担っている。
- ・MSWDOは予算が増加しているが、福祉関係に従事する人材が不足していることが主な理由で福祉事業の推進が困難な状況がある。
- ・CBRとは、主にハード関連予算が乏しい発展途上国の福祉活動で取り組まれ

ている、地域に根ざした障がい者支援の方法である。

- ・ロドリゲス市の障がい福祉のニーズは、i) 障がい児に対する早期療育と
ii) 障がい者のための生計向上・就労の2点がある。

<ロドリゲス市の障がい福祉関係団体>

MSWDO 社会福祉開発課	Municipal Social Welfare Development Office 障がい福祉行政の担当部署
PDAO 障がい福祉 事務所	Person with Disabilities Affaires Office 障がい者や家族からのニーズを受け、上記MSWDOの下部組織として設立された。今後の障がい施策の推進において中心的な役割を担う。
MHO 保健局	Municipal Health Office 無料の診療所があり、多くの患者が受診に訪れる。
CBRクリニック	Community-Based Rehabilitationの略で、地域で障がい者を支えているクリニック。ワーカーが在籍し、リハビリに従事している。
SAMABAKAMO	ロドリゲス市の現地NGO。障がい児の親の会で、障がい児や家族に対してボランティアで活動している。
Pedfero	ロドリゲス市の現地NGO。障がい者の当事者会で、同市の障がい福祉関連NGOの中心的な存在で行政との窓口にもなっている。
デラコスタ地区	Community LifeとCBRワーカーと一緒に活動している地区。殆どが貧しい世帯で、サービスを受けられない障がい者が多い。

これらの現状と課題を踏まえ、専門家派遣を2回、研修生の受入を1回、国際協力事業として実施した。

【フィリピン・ロドリゲス市への専門家派遣（第1回目）】

- ① 派遣期間 令和元年9月15日～9月21日
- ② 派遣者 4名（本市内の福祉事業所関係者3名、小学校教諭1名）
- ③ 主な活動スケジュール

日 程	内 容	
9/16（月）	ロドリゲス市視察	関係団体、小学校の訪問・視察
9/17（火）	セミナー	講義と質疑応答
9/18（水）	ワークショップ	アクションプラン作成
9/19（木）	関係団体を訪問	アドバイス
9/20（金）	カルモナ市訪問	インクルーシブ教育学校視察

④ 実施内容

<セミナー／講義、質疑応答>

- ・障がい福祉行政関係者、障がい児（者）支援従事者、障がい児（者）とそ

の家族など28名が参加した。日本語-タガログ語の通訳で、写真を中心に講義を進め、質疑応答の時間をとることで内容の理解を深めた。

・ロドリゲス市のニーズに応じた講義

i) 障がい児に対する早期療育

専門家自身が運営している児童発達支援事業所「にこら」での実践を基に、母親も一緒に参加する親子通園の特徴などの講義を実施した。

ii) 障がい者のための生計向上・就労

専門家が所属する「なかよし村」は重度の障がいを持つ子どもの家族が中心となって設立・運営されており、障がい者がどのように働き、働く意義を感じ、また、家族がどのような思いで作業所を設立してきたかの講義を行った。

<ワークショップ> (別紙) 参照

- ・参加5団体がアクションプランを作成した。

<インクルーシブ教育を行っている小学校の視察>

- ・インクルーシブ教育（障がいのある人も無い人も共に学ぶことを通じた共生社会の実現）が進んでいるカルモナ市の小学校を訪問した。小学校とPDAOは同じ敷地にあり、教育関係者と福祉関係者の連携が密である。
- ・PDAOでは障がい者が作ったパンを小学校に納品したり、学校で使用した紙を再利用して障がい者が作ったペーパーバッグや置物を学校で使用するなど、学校内で循環するシステムができています。



CBR クリニック訪問



ペーパーバッグ作りの様子

【フィリピン・ロドリゲス市からの研修生受入】

- ① 受入期間 令和元年10月6日～10月12日
- ② 研修生 4名（福祉行政関係者）
- ③ 主な活動スケジュール

日程	内容	
10/7 (月)	松山市障がい福祉課	組織概要、制度、防災
	ぼうしすてむ	障がい者雇用、パソコン業務の説明
10/8 (火)	南部障がい者地域支援センター	相談支援体制の仕組み

	親子通園くれよん 若草ワークス (就労継続支援事業所)	幼児療育、親子通園の説明と視察 障がい者の作業所視察
10/9 (水)	松山市内小学校 にこら (児童発達支援事業所)	特別支援学級の見学、交流 遊びと早期療育、設備の説明
10/10 (木)	共同作業所なかよし村 ひだまり (就労継続 B 型事業所)	作業の様子の見学、施設の説明
10/11 (金)	ワークショップ	アクションプランの作成と発表

④ 実施内容

<目標と研修プログラム>

- ・事前に研修生から要望を調査し、松山市の福祉行政の仕組み、社会的弱者の防災、障がい児への療育、障がい者就労に関する研修を組み立てた。

<研修内容>

- ・障がい福祉課：障がい者の区分や民間と行政の連携制度、障がい者の手当・年金の制度などへの関心が高く、多くの質疑応答があった。
- ・ぶうしすてむ：障がい者就労でパソコン業務を行っている事業所。パソコン業務は環境が良ければ在宅でも可能で、仕事の単価も高い。
- ・南部障がい者地域支援センター：要支援者のための手厚い相談支援体制と、市の委託契約で民間事業所が運営していることに驚いていた。今後フィリピンでも、民間の力を活用した福祉サービスの導入が検討されるかもしれない。
- ・にこら：この施設のような小規模の児童発達支援事業所をロドリゲス市で導入することに意欲的であった。

<ワークショップの概要> (別紙) 参照

- ・社会福祉開発課 (MSWDO) と保健局 (MHO) の研修生がそれぞれ今後の活動を計画し発表した。



なかよし村視察



松山市障がい福祉課の説明

【フィリピン・ロドリゲス市への専門家派遣（第2回目）】

- ① 派遣期間 令和2年1月12日～1月17日
- ② 派遣者 2名（本市内の福祉事業所関係者）
- ③ 主な活動スケジュール

日程	内 容	
1/13(月)	ロドリゲス市視察	・関係各所訪問と現地視察、市長訪問
1/14(火)	ワークショップ	・障がい者手当支給日の視察 ・講義(在宅就労について)と質疑応答 ・MH0/MSWDO の現況報告 ・各団体からの活動報告
1/15(水)	カルモナ市訪問 セミナー	・現地視察とアクションプランの現況報告 ・講義(在宅就労について)
1/16(木)	市庁舎訪問	・市長と県議(元市長)訪問



障がい者手当 初支給日の様子



障がい児のデイケア開設予定施設

④ 実施内容

＜関係団体訪問＞

- ・デラコスタ地区では、9月に派遣した専門家とインターネットを通じてリハビリ担当のCBRワーカーへアドバイス行った。現地のネット環境は不安定ではあるが、遠隔地サポートの可能性を感じた。
- ・今回派遣した専門家は全身に麻痺があるため車いすを利用した移動であった。移動車に車いす用のリフトがなかったりスロープが無いなど、ハード面でのバリアフリー化が進んでいないため移動が大変であったが、現地ではマンパワーでの対応が多く、心のバリアフリーを感じた。

＜障がい者手当の初支給日の視察、ワークショップ＞（別紙）参照

- ・1/14に初めての支給日を迎えたロドリゲス市の障がい者手当の制度は、2018年に実施した松山市での研修のあと、ロドリゲス市の福祉予算に計上し少しずつ実施しながら固めていった制度である。支給対象者（約1,000人）に月400ペソを四半期ごとに支給する制度の初支給日となった。
- ・障がい者の在宅就労での働き方を提案するセミナーを実施した。フィリピンでは作業所までの交通費がないために、結局は家の中に留まる障がい者が

多い。障がい者が在宅で働いている日本の様子を、写真や映像を通じて学んだことは、今後のロドリゲス市の障がい福祉に参考となったと考える。

- ・MSWDO では、松山市の児童発達支援事業所を参考とした障がい児のデイケア一開設の提案が市長に承認された。開設予定施設が決まり、2020年6月の新学期に向けて工事やスタッフの研修が進んでいる。

＜障がい者を雇用している企業訪問＞

- ・火山噴火の影響で訪問予定であった学校が休校となったため、予定を変更し障がい者を雇用している会社を訪問した。
- ・カルモナ市は立地的条件が良いため各国の工場がある。工場建設の条件として、カルモナ市は障がい者雇用の協力を要請しているため、障がい者が働いている工場が多い。
- ・耳が不自由な女性を雇用している工場では、障がい者の賃金は他の従業員と同じで、簡単な手話を使いながら同僚とコミュニケーションをとっていた。工場の責任者はカルモナ市の障がい者雇用の施策に共感していた。

＜カルモナ市役所訪問とセミナー＞

- ・市庁舎のホールで、今回派遣の専門家が運営する「ぼうしすてむ」の障がい者雇用、パソコン業務についてのセミナーを開催した。カルモナ市ではIT教育に重点を置いており、「ぼうしすてむ」のIT関連事業における在宅就労の様子や運用が参考になったようだ。
- ・フィリピンの障がい福祉施策は国としての制度が確立されておらず、各自自治体に委ねられている中で、カルモナ市はインクルーシブ教育や企業の障がい者雇用などの点で、障がい福祉の先進自治体として視察に来る団体も少なくないとのことであった。

（2）国際理解事業（国際理解ESD）

松山市とNPO法人えひめグローバルネットワークは、平成21、22年に本助成事業の採択を受け「国際交流・国際協力に基づくESD教材・カリキュラム開発事業」を実施した。この取り組みの成果として、（公財）松山国際交流協会では平成23年度から「ESDコーディネーター派遣事業」を開始した。この事業を活用して国際理解ESDを実施するとともに、SDGsの視点を取り入れた授業を展開した。

①松山市内の学校における国際理解ESDの推進

ア 実施校数：松山市内の小学校5校計14回、中学校1校計1回

- ・ESDの専門家であるNPO法人えひめグローバルネットワークを学校へ派遣し、頭で理解するだけでなく実際に行動に移す活動やSDGsの視点を取り入れた授業の支援を行った。
- ・本事業でフィリピン・ロドリゲス市との国際協力事業を担っているNPO法人Community LifeやESD教育を受けて成長した大学生などと連携し、学習や活動をより身近な内容のものとして感じるができる工夫を行った。

- ・フィリピン・ロドリゲス市からの研修生受入の機会を捉えて小学校で交流し、フィリピンの現状や文化について学ぶ体験授業を行った。

学校	主な内容
味生第二小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の文化や生活の様子を知ろう フィリピン ・フィリピン・ロドリゲス市からの研修生との交流
北条小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の文化や生活の様子を知ろう フィリピン、モザンビーク
清水小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ちがう国でも同じこと（自然・国際理解）
新玉小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・モザンビークの言語、文化、国際理解、国際協力について ・モザンビークオリンピック委員会と交流
東雲小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD環境学習との連携 ・モザンビークからの研修生との交流
拓南中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に羽ばたく先輩に学ぼう



みんなの生活展 パネル展示



小学校での国際理解 ESD

②周知・広報および体験学習

ア イベント等でのブース出展

松山市民が多く集まるイベントなどの機会を捉えブースを出展し、パネル展示やクイズなどを通じて活動の周知・広報の場とした。

- ・みんなの生活展 令和元年10月19日（土）大街道商店街
 - ・地球人まつり 令和2年1月19日（日）松山市総合コミュニティセンター
- イ 体験学習

フィリピン料理作り体験を通じて、国際と福祉の分野についての理解を促進し、SDGsの視点を取り入れた学習を行った。実施にあたっては、市内の福祉事業所にも参加を呼び掛け、障がい児（者）も共に国際交流を体験する機会とした。

- ・英語de Cooking! 令和元年12月21日（土）コムズ調理室

(3) 教材作りに向けた企画・調査・研究

令和2年度に予定している国際理解 ESD と SDGs を推進するための教材づくり

に資する情報収集、汎用性の検討、および専門家や関係団体との連携ネットワークづくりの活動や、講演活動を行った。

①ESD 拠点交流会

開催日：令和元年 11 月 6 日(水)

②ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019

開催日：令和元年 12 月 20 日(金)

③「ESD for SDGs」 ワークショップ意見交換会

開催日：令和元年 12 月 23 日(月)

④ESD 研修交流会(兼日本 ESD 学会第 1 回四国地区研究会)

開催日：令和 2 年 1 月 25 日(土)

4. 成果と課題

<国際協力事業>

- ・成果については(別紙)を参照
- ・今後の課題は、今年度ロドリゲス市で新たに始まった障がい者年金制度と障がい児のデイケアを定着させるための支援が継続して必要である。

<国際理解事業>

- ・本事業を通じて、NPO 法人えひめグローバルネットワークとフィリピン・ロドリゲス市との国際協力事業を担う NPO 法人 Community Life が連携して国際理解 ESD を推進できたことが成果のひとつである。
- ・ESD や SDGs の推進を担える団体や人材の育成が必要であることが分かった。

<教材作りに向けた企画・調査・研究>

- ・本事業を実施するにあたり、これまでの NPO 法人えひめグローバルネットワークと本市の ESD 推進を振り返り、取りまとめることができた。
- ・学校や教育関係者との連携、SDGs の導入方法、将来を見据えた教材の活用方法は時間をかけて検討が必要な課題である。

5. 今後の展望

2年目の令和2年度はSDGsの理解の一助となる教材の作成を計画しており、「持続可能なまちづくりの視点を持った人材の育成」に繋げたい。

6. 他の自治体の参考となると思われる点

国際協力や国際交流の事業実績を題材に、SDGs 推進へ繋げることで既存事業の成果検証となるとともに、自治体における SDGs 推進に寄与すると考える。

ロドリゲス市との福祉技術支援交流の成果・効果について

〇ロドリゲス市行政

部署	松山市研修時(10月)活動計画	第2回専門家派遣時(11月)の状況	成果・効果
社会福祉開発課 MSWDO	<p>【計画目標】</p> <p>①障がい者手当の創設と運用 ②就学前の障がい児療育を目的としたデイケアの設立</p> <p>【目的】</p> <p>就学前の幼児教育の一環として各地域(11地域)にデイケアがあるがその内の一つを障がい児専用として整備し、障がい児療育を推進する。</p> <p>【今後の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者に意見を聞いて、市長から承認を得られるよう計画を立てる。 ターゲットの地区の会長とミーティングをする。 関係者に子どものリハビリを提供してくれるよう依頼する。 子どもの様子を知るためのアセスメントツールを作成する。 必要な教材や物品を購入する。 スタッフをトレーニングする。 松山市で視察した障がい児通所支援事業所を参考としたい。 	<p>①障がい者手当の創設と運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 制度が固まり、本格運用の初回支払日を迎えた。2020.1.14 全支給対象者(約1,000人)に月400ペソを四半期ごとに支給する。 	<p>①障がい者手当の創設と運用</p> <p>専門家派遣や松山市での研修を経て、2020年より仕組みが固まり本格的に障がい者手当が始まった。本事業前の2018年の松山市研修後からMSWDO/PDAOが取り組んできており、本事業の支援を通じて員増してきた。</p>
	<p>【計画目標】</p> <p>②就学前の障がい児療育を目的としたデイケアの設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 市長への提案が承認された。 開設予定施設も決まり、内装工事が進んでいる。 新学期の2020年6月に向けてスタッフのトレーニングを始める予定。 松山市の専門家の招聘を検討中。 	<p>②障がい児のデイケアの設立</p> <p>ロドリゲス市での障がい児療育への関心が高まった。市長の承認を得て、MSWDOが障がい児のデイケアをモデル的に始めることになった。フィリピンの新学期に当たる2020年6月の開所を目指している。</p>	
保健局 MHO	<p>【計画目標】</p> <p>障がい者の生計向上活動の推進</p> <p>【目的】</p> <p>OBRクリニックに通う患者(主に成人)と一緒にバッグや布製品など作り、販売して生計に役立ててもらおう。</p> <p>【今後の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> OBRワーカーや障がい者関係者対象にしたセミナー 障がい者へのトレーニング(支援)の実施 関係者等とのミーティングの実施と委員会の設立 製品等の作成と販売 など 	<p>11月からOBRセクションでバッグ作りを開始。生計向上に加え、作業でリハビリの効果もあり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者団体と生計向上に向けての協議を実施。 NMAPというNGOにミシンを使った作業についての提案を行い、ミシンを配付してもらうことが決まった。 今後、ミシンを活用して足ふきを製作し、販売する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の生計向上プログラムが正式に導入された。 これまでボランティア的に個別で活動していたことが、MHOの組織として動き始めたことは大きな一歩である。
	<p>OBRセクションに生計向上という業務が加わり、OBRワーカーの立場向上の意味も含め、ボランティアから嘱託職員に格上げする措置が取られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> OBRワーカーの特遇が改善された。 これまでOBRワーカーの手当では少額で不安定であったが、金額が増え、立場も安定して、安心して働く環境となった。 	

〇ロドリゲス市の障がい福祉関係団体

グループ	第1回専門家派遣時(9月)のアクションプラン	第2回専門家派遣時(11月)の状況	成果・効果
OBR	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の生計向上活動(ペーパーバッグ作り)を継続し、新しい作業の種類をみんなで考えていく。 家族との話し合いを密にとっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> MHOとクリスマスバッグを作成。 家族との話し合いも行き、家族のグループを形成している。 リハビリの患者は年々増えている。 	<p>①ロドリゲス市における草の根レベルの活動が活発となった。各NGOや家族などが集まってワークショップを実施することでモチベーションが上がり、目標がはっきりした活動ができるようになった。</p> <p>②現地NGOと行政(MHOとMSWDO)との連携が体制が強まった。本事業を通じてMHOやMSWDOがNGOの現場に行って直接ニーズを聞いて、行政側もNGOの協力によって福祉サービスの裾野が広がるなど、良好な関係が構築された。</p>
SAMABAKAMO	<ul style="list-style-type: none"> メンバーが集まって、障がい児療育のスキルを高めていき、家族に対応の手法など教えていく。 子どもや家族のニーズを集めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動や、家庭への訪問リハビリを行い、家族への指導を行っている。 OBRワーカーを呼んでリハビリ講習を行った。 本事業を通じてMSWDOと繋がり、今後の支援を得られるようになった。 	
Pedfero	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にメンバー間でミーティングを実施し、障がい者のニーズを話し合い、行政に伝えていく。 それぞれの地区の障がい者協会の活動の様子を視察し、必要な時には助言や援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月ミーティングを実施。各地区の障がい者団体を回り、助言をしている。 PDAOの職員も同行して、話し合いを持っている。 	
テラコスタ地区	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児の家族が集まって子どものニーズを考えたり、知識の情報交換をする。 リハビリの方法をOBRワーカーから学んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> テラコスタ地区の家族家でリハビリの指導を行う。 家族の結束を高めていくためにグループ形成の取り組みも行われている。 	
PDAO	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児や家族への手当を支給を制度化する。 障がい児や家族のニーズを聞いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> MSWDOと一緒に障がい者手当を制度化した。 Pedferoのミーティングに参加してニーズを汲み取っていった。 	